
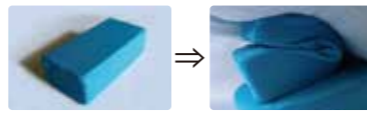
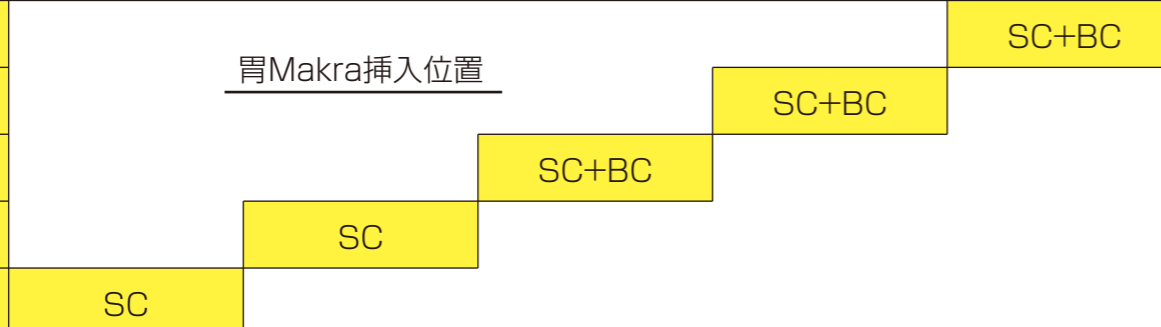


取扱説明書（撮影法ダイヤグラム、取扱・使用上の注意事項）

部品名(略号)	本体クッション (SC)		ブロッククッション (BC)⇒BC折りバネ状				
胸骨下縁							
頭側							
中央							
中央							
やや足側							
胃形	下垂胃	鉤状胃	やや横胃	横胃(牛角胃)	瀑状胃		
体動の角度	追加体動				深呼吸・背伸		
立位(80°)	(幽門前部の軽度圧迫を目途)				深呼吸・背伸		
立位(70°)					背伸	深呼吸・背伸	ずり上り
斜位(45°)					ずり上り	ずり上り	ずり上り
水平	何もしない	ずり上り(背伸)	軽い尾上位	尾上位	強い尾上位		
逆傾斜(目安)	軽度	適度	-30	-40	-40		

胃Makra

※ 取扱・使用上の注意(内容の一部又は全部を無断転載は禁止されています。)

1. 本製品と加圧、加温、圧縮等外力や内圧などを変化させて使用しないでください。
2. 本製品と石油由来薬品や化学薬品等とは化学反応を生ずる恐れがありますので合わせて使用しないでください。
3. 本製品と1セット以上でのご使用や他の胃圧迫フトン等他物質との組み合わせでのご使用の際の事故、医療過誤等の安全に担保していません。ご利用には安全に呉々も細心のご注意をお願いします。本製品使用目的以外の使用では責任を負いませんので、ご了承下さい。
4. 受診者様や患者様の無理な状況でのご使用は肋骨骨折などの医療過誤を引き起こす恐れがありますので細心の注意を払いご使用ください。
5. その他の使用について、本製品は胃X線二重造影撮影法での使用に対応させています。取扱説明書以外のご使用は確認不明です。安全を含めご使用はしないようにお願いします。
6. 洗濯について、ぬるま湯で手押し洗い等で優しくお願いします。
7. 本製品は2万件を超えると効能が維持できない事があります。その際は交換をお願いします。

以上

解説書

解説：前提条件		一般的に腹臥位の胃の軸はX線画像上、頭足体軸に対しやや左側におおよそ20度、下部は横断軸に対し頭側におおよそ20度傾斜が観察ができる。求める目的は、胃の軸の上部中部は脊椎に平行に、下部は横断方向に伸展平坦化を実施する。
下垂胃	形状	投与した発泡剤で膨満した胃は、足側が骨盤ヤコビ線より更に足側に位置し、緊張が乏しく胃縦軸は脊椎に平行を呈する。
	目的	胃MakraSCを腹部中央に置き、軽度の平坦化を実施。
	逆傾斜	必要に応じ実施。
	追加体動	必要なし。
鉤状胃	形状	発泡剤による膨満胃は一般的な緊張の胃で、胃縦軸が脊椎に対し軽度左から軽度右側に傾き、下部は体横断軸に対し左上方に傾斜を呈する。
	目的	上部軸を脊椎に対し平行且つ、下部胃軸を体横断軸に平行にするため、縦軸と横軸の交点上部近傍にMakraSCを置き平坦化と軽度伸展を実施。
	逆傾斜	軽度～20度までを目安。
	追加体動	必要なし。
軽度の横胃(軽度牛角胃)	形状	上下の胃軸は鉤状胃より更に胃軸は左回転をし、胃軸の交点は腹壁方向に加圧をうけている。
	目的	縦軸と横軸の交点上部近傍にMakraSCを置き、更に胃軸上下交点の左内測でMakraBCを重ね、BCバネ力を用いて上部軸を伸展し下部軸をやや強い伸展化を実施し、胃軸をL字形へと誘導。
	逆傾斜	30度程度を目安。
	追加体動	背伸び。
横胃(牛角胃)	形状	上下の胃軸はやや横胃より更に左回転をし上軸は2分され上部と中部に、上部は右傾斜を呈し中部は左傾斜し下軸は短く、交点は更に腹壁方向に加圧を受ける。
	目的	縦軸と横軸の交点上部近傍にMakraSCを置き、更にMakraBCを軸交点上部で重ね、2分された上部を立位でバリウムの重さと背伸びで伸展する。中部はBCバネ力で腹壁加圧を解消し、下部軸はSCとBCバネ力とずり上がりで伸展平坦化へ誘導実施し、胃軸をL字形へと誘導。
	逆傾斜	40度まで。
	追加体動	背伸び・ずり上がり・必要に応じ尾上位。
瀑状胃	形状	上中下の胃軸は横胃より更に左回転をし、上中部の軸で逆V字を呈する。中部下部軸は境界不明瞭と成る。下部軸は腹壁測に螺旋状に内測回転を呈する。
	目的	縦軸と横軸の交点上部近傍にMakraSCを置き、更にMakraBCを軸交点上部上方で重ね、立位で上部をバリウムの重さと背伸びとずり上がりで強く伸展する。中部はSCとBCバネ力で腹壁加圧を解消し、下部軸はSCとBCのバネ力とずり上がりで伸展平坦化へ誘導、下部の腹壁測内測回転を尾上位で修正を実施。胃軸をL字形へと誘導。
	逆傾斜	40度まで
	追加体動	立位にて積極的に背伸び・ずり上がり・尾上位。